

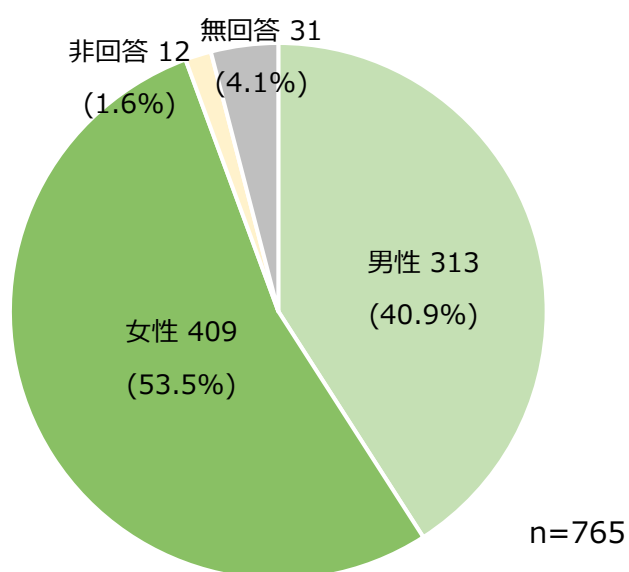
3. 調査結果

回答者の属性

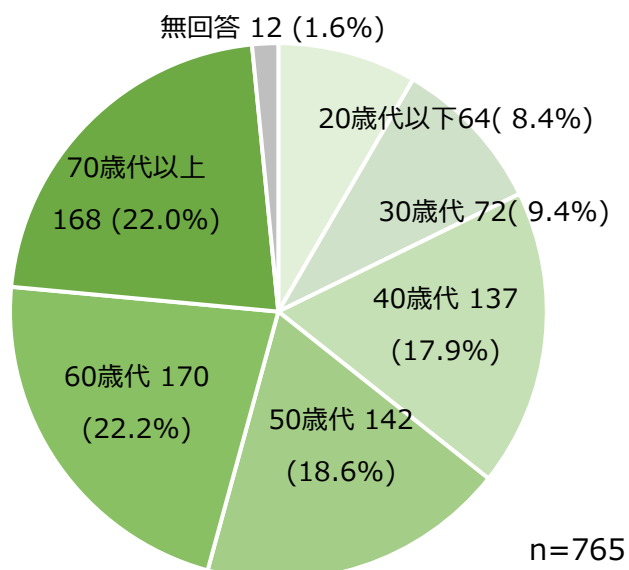
①性別・年齢

- ・回答者の男女比は、女性回答者（53.5%）が多かった。
- ・回答者の年齢は、60 歳代が最も多く（22.2%）、70 歳代（22.0%）、50 歳代（18.6%）、40 歳代（17.9%）がそれに次ぐが、これら中高年を合わせると、全回答者の 80.7%を占めている。

【性別】

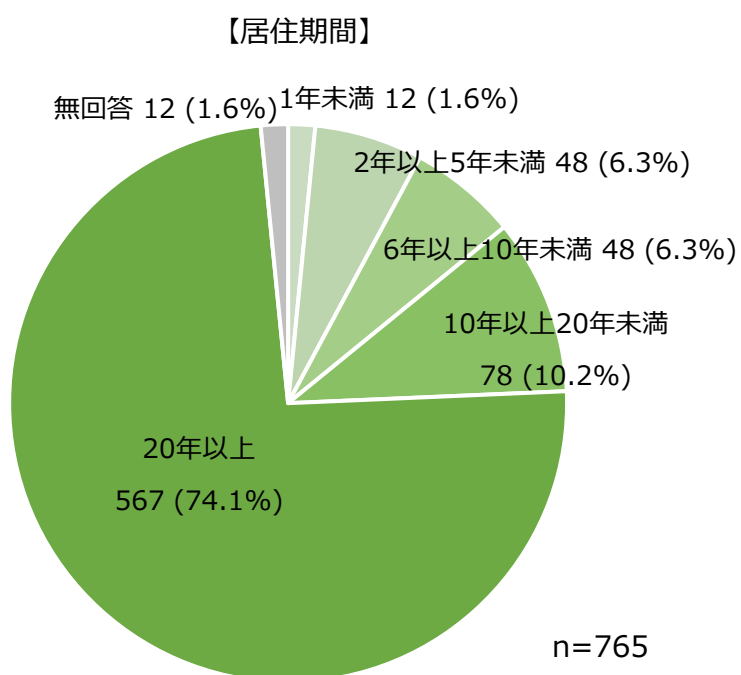
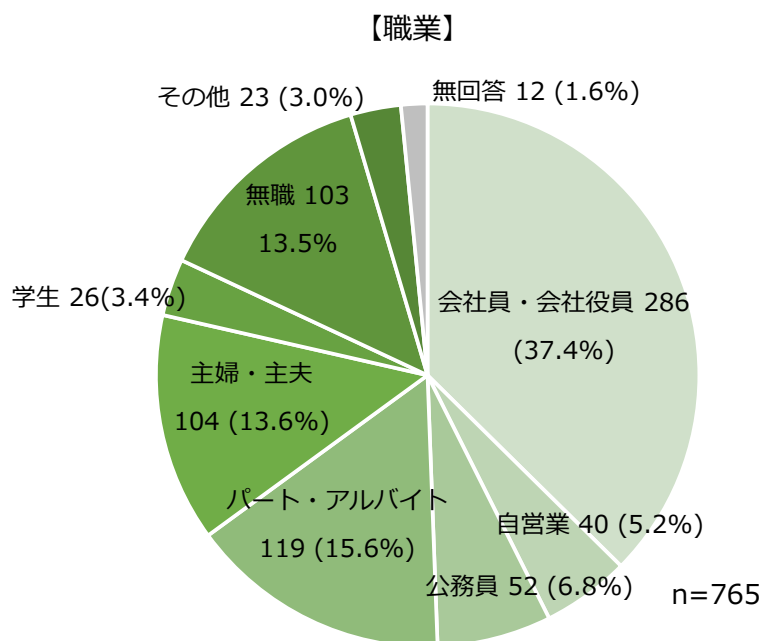


【年齢】



②職業・居住期間

- ・回答者の職業は、会社員がもっとも多く（37.4%）、パート・アルバイト（15.6%）、主婦・主夫（13.6%）がそれに次ぐ。
- ・回答者の居住期間は、20年以上が最も多く（74.1%）、10年以上20年未満（10.2%）がそれに次ぐ。



③お住まい（小学校区）

・回答者の小学校区は、小坂（3.3%）や中央（3.0%）、南小立野（3.0%）、大徳（3.0%）が多い。

【小学校区】

n=765

小学校区	回答数	割合
中央	23	3.0%
明成	15	2.0%
兼六	20	2.6%
杜の里	6	0.8%
朝霧台	2	0.3%
田上	8	1.0%
小立野	21	2.7%
犀桜	5	0.7%
南小立野	23	3.0%
長坂台	11	1.4%
泉野	18	2.4%
十一屋	16	2.1%
中村町	13	1.7%
泉	19	2.5%
三馬	19	2.5%
米泉	15	2.0%
富樫	17	2.2%
伏見台	22	2.9%

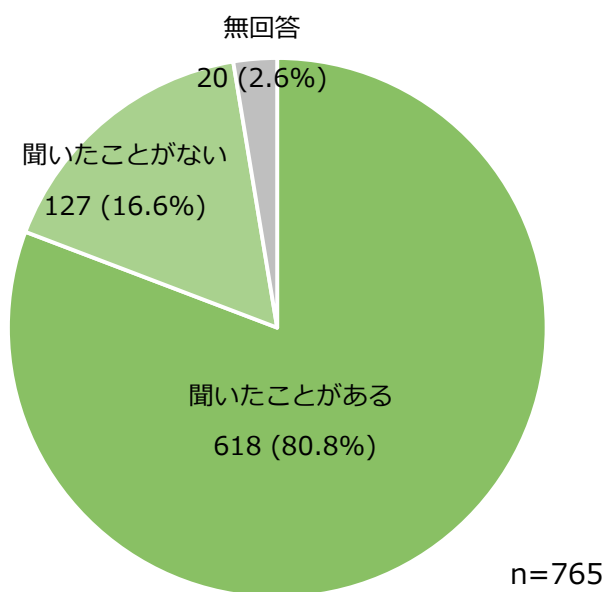
小学校区	回答数	割合
四十万	12	1.6%
額	7	0.9%
扇台	8	1.0%
米丸	22	2.9%
新神田	10	1.3%
押野	12	1.6%
西南部	9	1.2%
緑	6	0.8%
安原	8	1.0%
三和	9	1.2%
栗崎	9	1.2%
大野町	2	0.3%
金石町	11	1.4%
木曳野	14	1.8%
大徳	23	3.0%
浅野川	13	1.7%
諸江町	16	2.1%
鞍月	16	2.1%

小学校区	回答数	割合
長田町	9	1.2%
戸板	9	1.2%
西	11	1.4%
千坂	11	1.4%
大浦	12	1.6%
浅野町	6	0.8%
花園	6	0.8%
森本	19	2.5%
小坂	25	3.3%
森山町	9	1.2%
三谷	1	0.1%
夕日寺	8	1.0%
不動寺	2	0.3%
医王山	3	0.4%
犀川	8	1.0%
内川	0	0.0%
湯涌	1	0.1%
未回答	145	19.0%

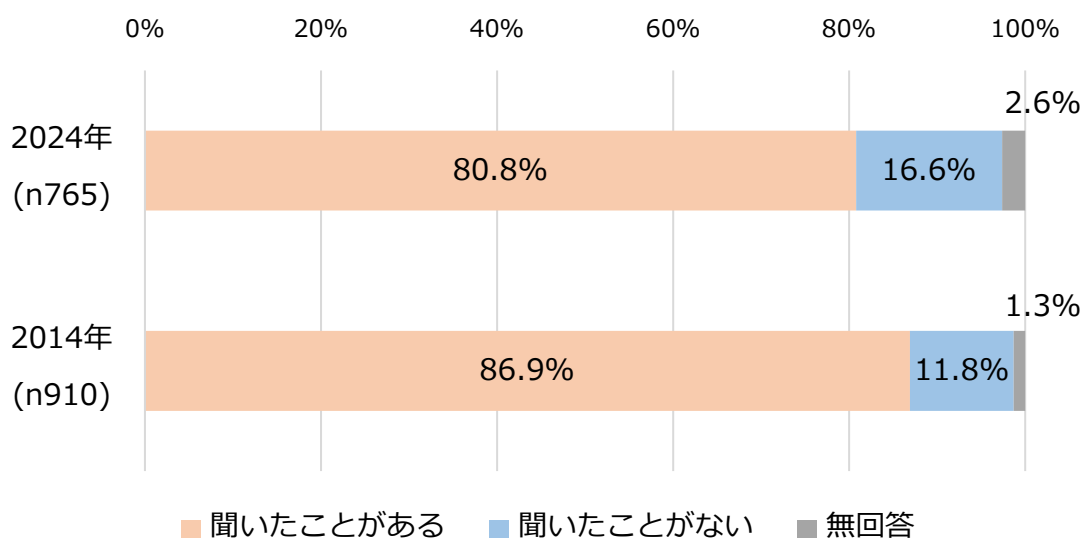
回答者の生涯学習の状況について

問1 あなたは、「生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか。〔1つだけ○〕

- ・「生涯学習」という言葉の認知度は高く、80.8%の市民が「聞いたことがある」と回答している。
- ・2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、ほぼ同様の傾向が見られる。しかし、2024年（令和6年）は「聞いたことがある」の割合が6.1%下がっている。



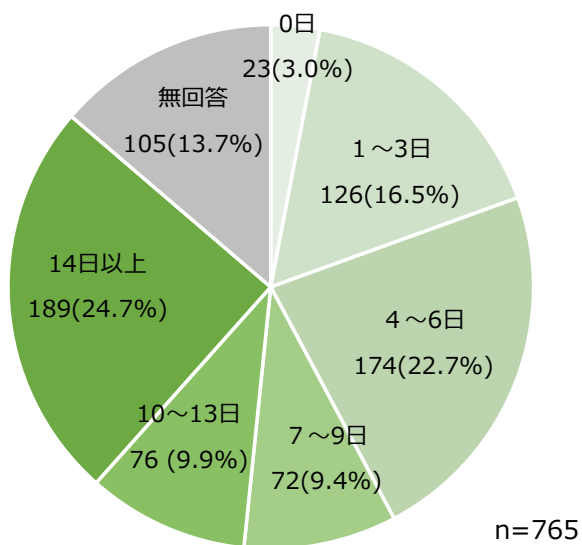
【2014年（H26）調査との比較】



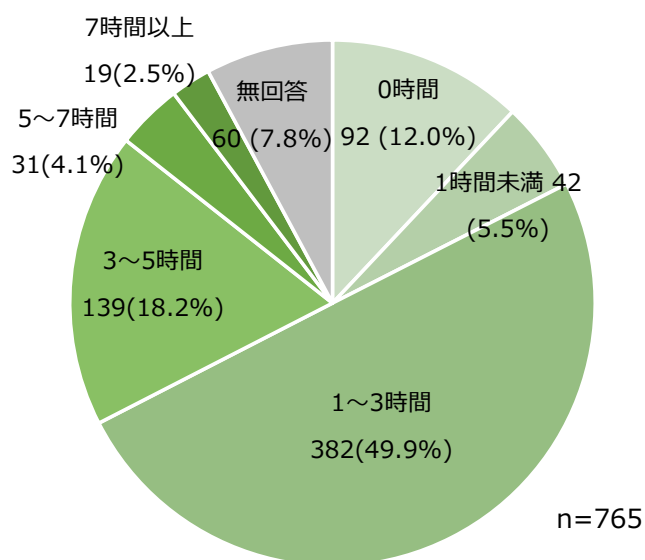
問2 あなたの自由時間の中で、生涯学習のために使える時間はどれくらいですか。数字を入れてください。(日数・時間の両方について記入してください)

- ・生涯学習等のために使える一月あたりの日数は、「14日以上」(24.7%) がもっとも多く、「4～6日」(22.7%)、「1～3日」(16.5%) がそれに次ぐ。
- ・生涯学習等のために使える一日あたりの時間は、「1～3時間」(49.9%) がもっとも多く、「3～5時間」(18.2%) がそれに次ぐ。

【一月あたりの日数】

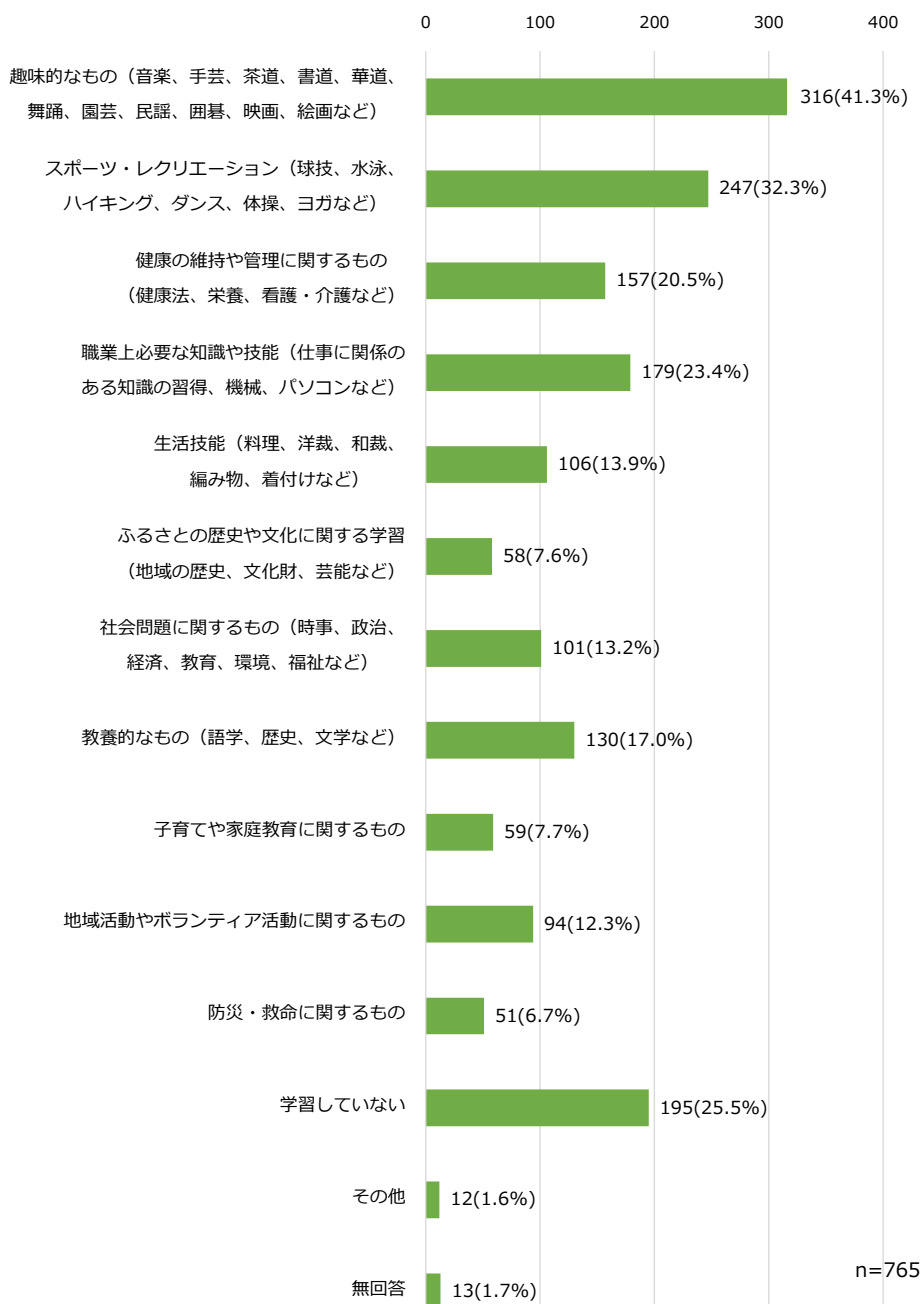


【一日あたりの時間】



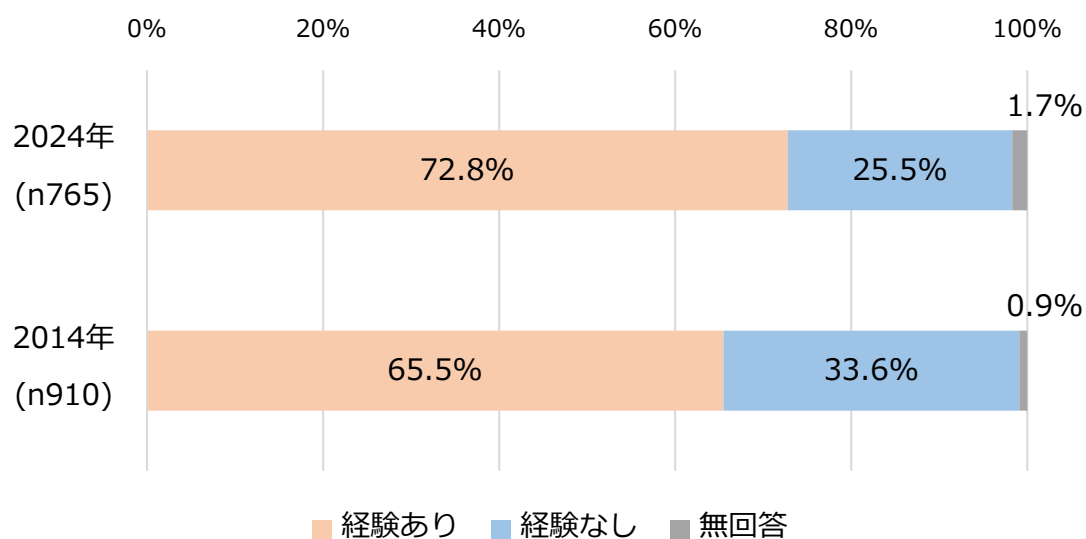
問3 あなたは、この1年くらいの間に、どのような生涯学習活動を行いましたか。〔すべてに○〕

- ・回答者の72.8%がこの1年くらいの間に学習活動をしている。
- ・学習内容については、「音楽、手芸、茶道などの趣味的なもの」(41.3%)がもっとも多く、「スポーツやレクリエーション」(32.3%)がそれに次ぐ。
- ・そのほか、「職業上必要な知識や技能」(23.4%)、「健康の維持や管理に関するもの」(20.5%)も20%を上回っている。



・2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、ほぼ同様の傾向が見られる。しかし、2024年（令和6年）は「経験あり」の割合が7.3%増えている。
このことから、近年は学習活動への参加が増加していることが示されており、特に趣味やスポーツ、職業技能、健康維持といった多様な分野での学びが重要視されていることが分かる。

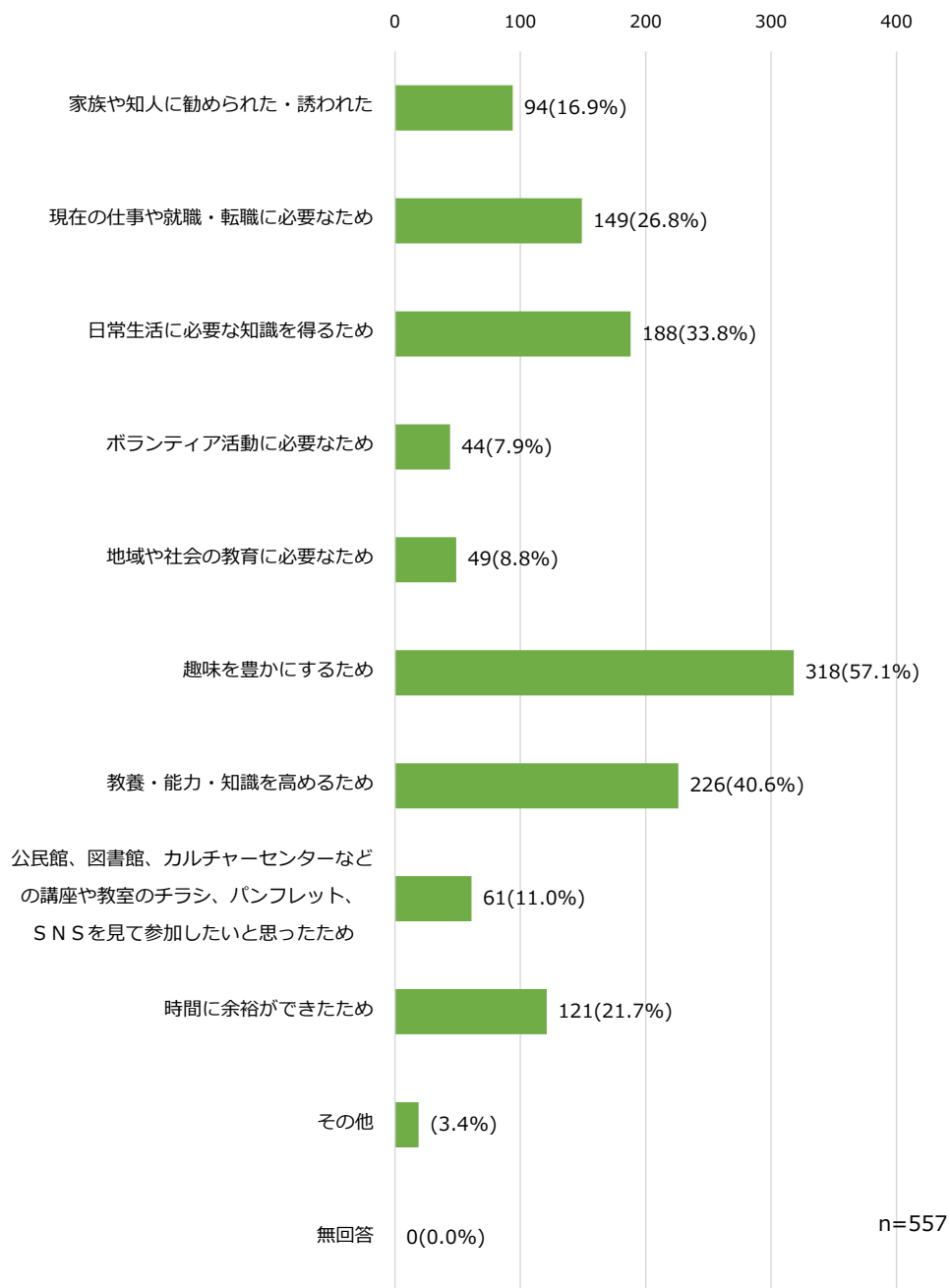
【2014年（H26）調査との比較】



問4 生涯学習をするようになったきっかけや動機は何ですか。〔すべてに○〕

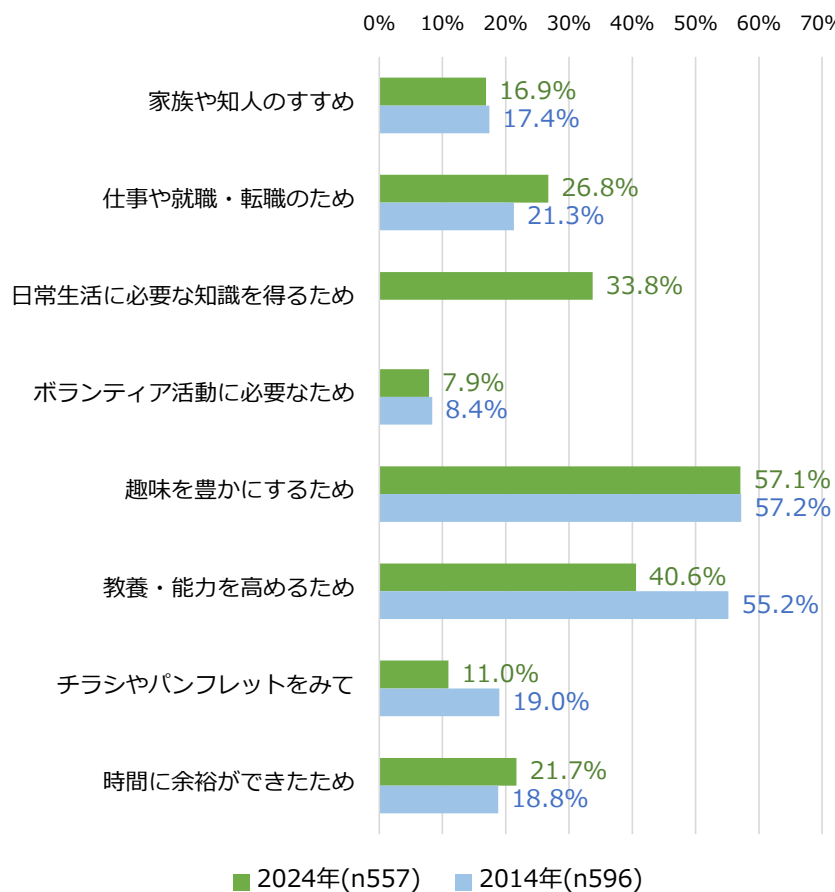
(生涯学習活動を行っている回答者 557 人)

・学習活動を始めたきっかけや動機として最も多かったのは「趣味を豊かにするため」(57.1%)であり、「教養・能力・知識を高めるため」(40.6%)がそれに次ぐ。



- ・2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、「趣味を豊かにするため」はほぼ同じ割合で最も多い動機である。しかし、それに続く「教養・能力・知識を高めるため」の割合は、2024年（令和6年）では14.6%下がっている。
- ・趣味・教養に関する動機に続く回答では、2014年（平成26年）は「仕事や就職・転職のため」（21.3%）であったが、2024年（令和6年）は新たに選択肢として設けた「日常生活に必要な知識を得るため」（33.8%）が30%を上回り、多い回答の一つとなっている。
これにより、生活に密接に関連した学習活動への関心が高まっていることが示された。

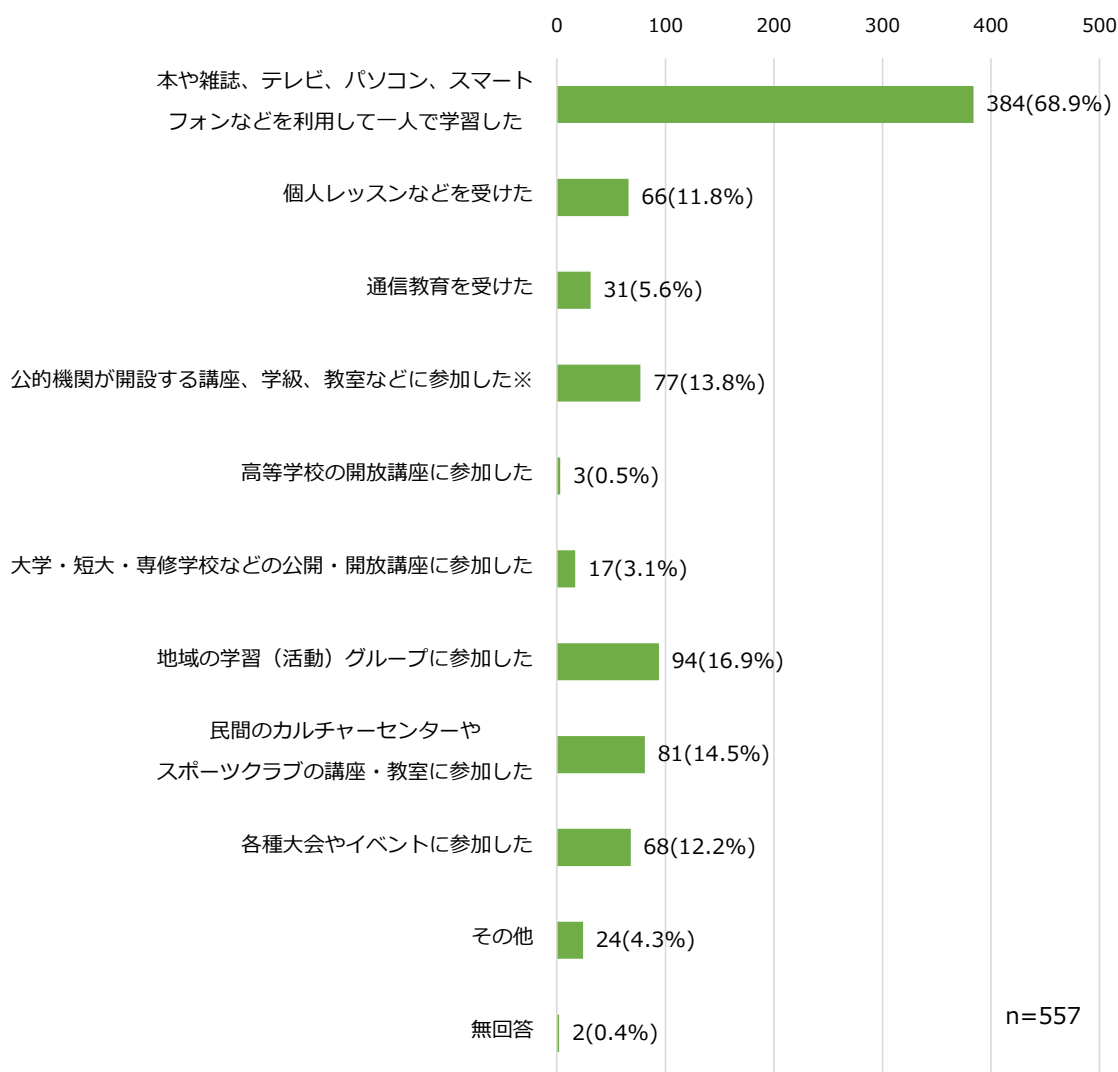
【2014年（H26）調査との比較】



問5 主にどのような方法で学習しましたか。〔すべてに○〕

(生涯学習活動を行っている回答者 557 人)

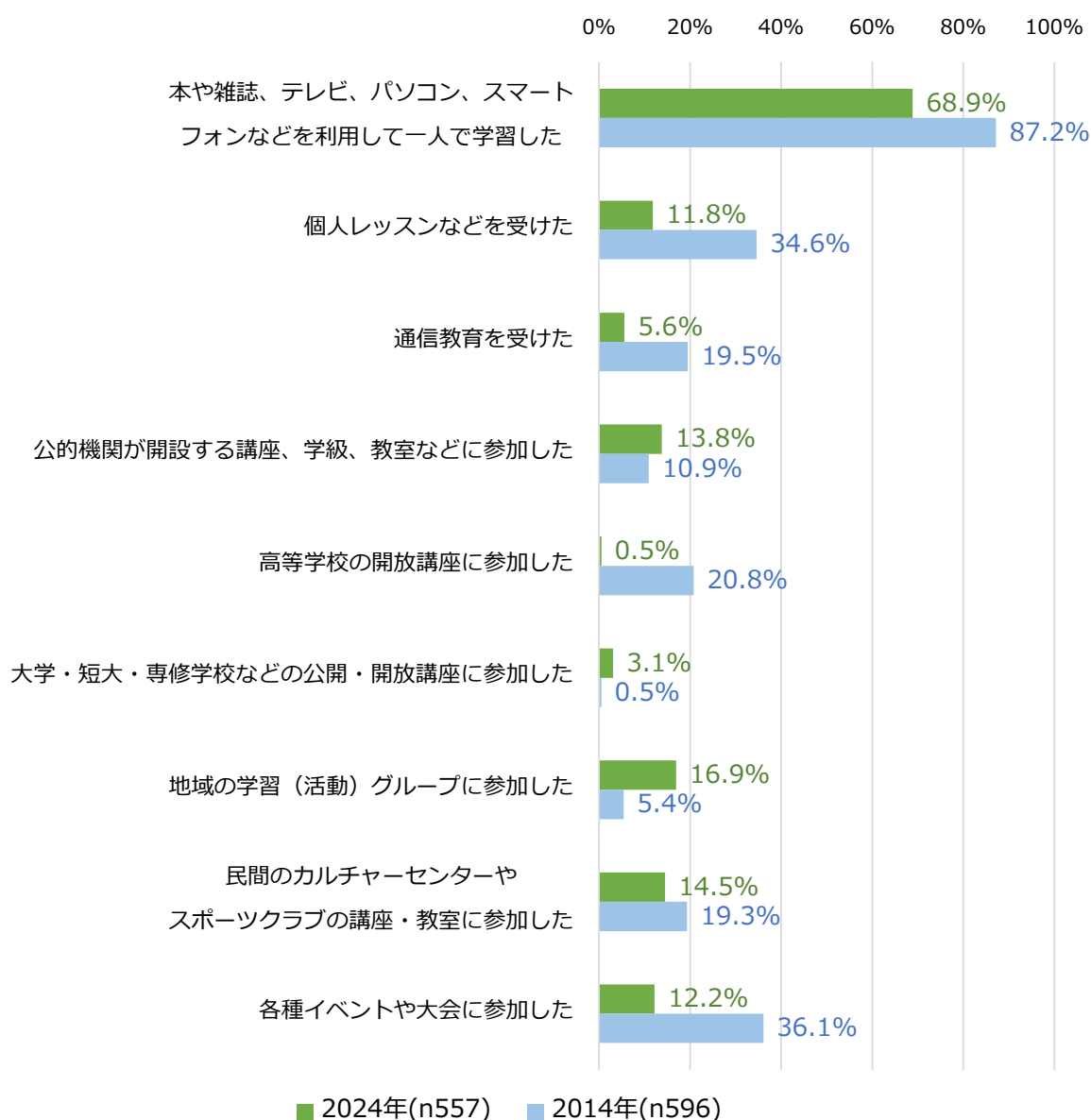
- ・学習方法で最も多かったのは「本や雑誌、テレビ、パソコン、スマートフォンなどを利用して一人で学習した」(68.9%)であった。
- ・そのほかの回答については2割を下回る結果となったが、「地域の学習(活動)グループに参加した」(16.9%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブの講座・教室に参加した」(14.5%)、「公的機関が開設する講座、学級、教室などに参加した」(13.8%)など、**地域や公共の場を利用した学習活動も一定の支持を得ていることが示された。**



※県民大学校、かなざわ市民アカデミー、高砂大学校、各種美術館博物館の講座、ナイトミュージアムなど

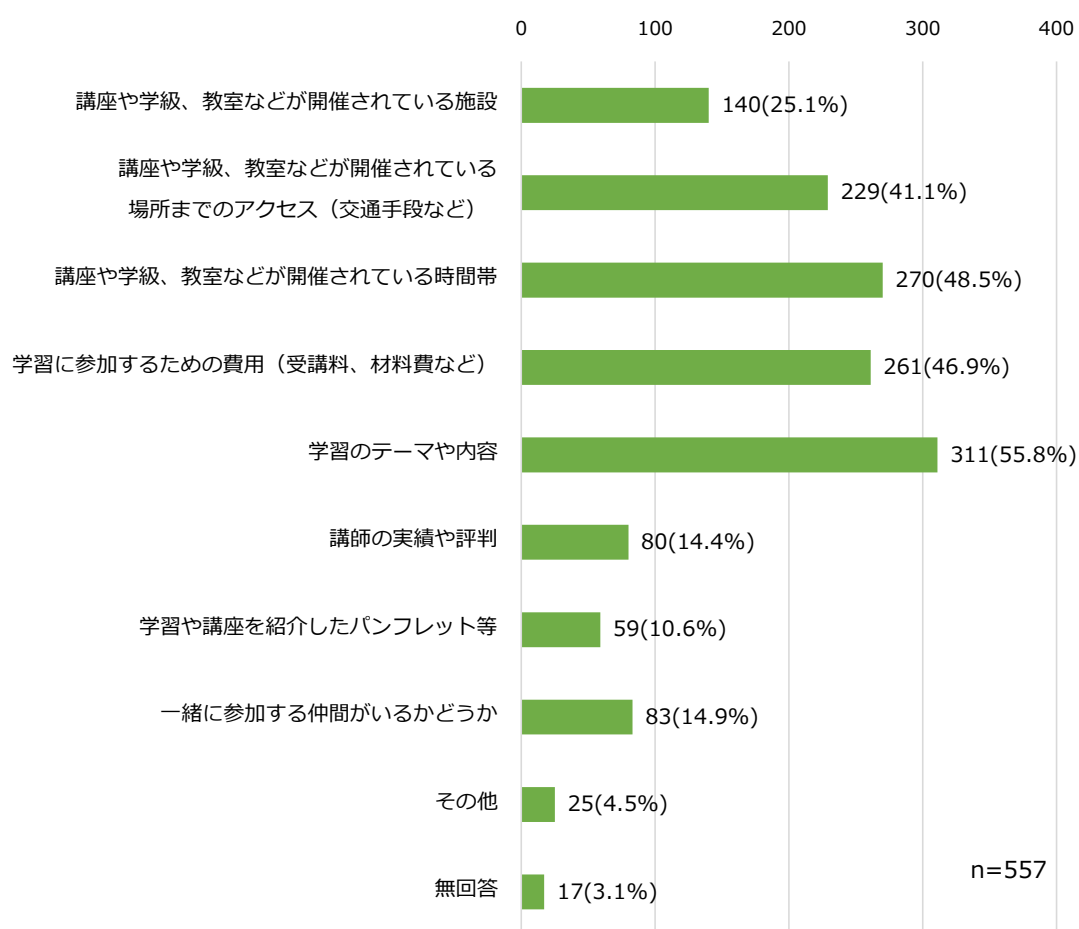
- ・2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、「本や雑誌、テレビ、パソコン、スマートフォンなどを利用して一人で学習した」がもっとも多く、ほぼ同様の傾向が見られる。
- ・しかし、2014年（平成26年）は「個人レッスンを受けた」（34.6%）、「通信教育を受けた」（19.5%）など、一人で学習している割合が多いのに対し、2024年（令和6年）は、「公的機関が開設する講座、学級、教室などに参加した」（13.8%）、「地域の学習（活動）グループに参加した」（13.8%）が比較的増えていることから、共同学習やコミュニティベースの学習活動への関心が高まっていることが示されている。

【2014年（H26）調査との比較】



問6 あなたが学習や講座を選ぶとき決め手となる主なポイントは何ですか。〔すべてに○〕
 (生涯学習活動を行っている回答者 557 人)

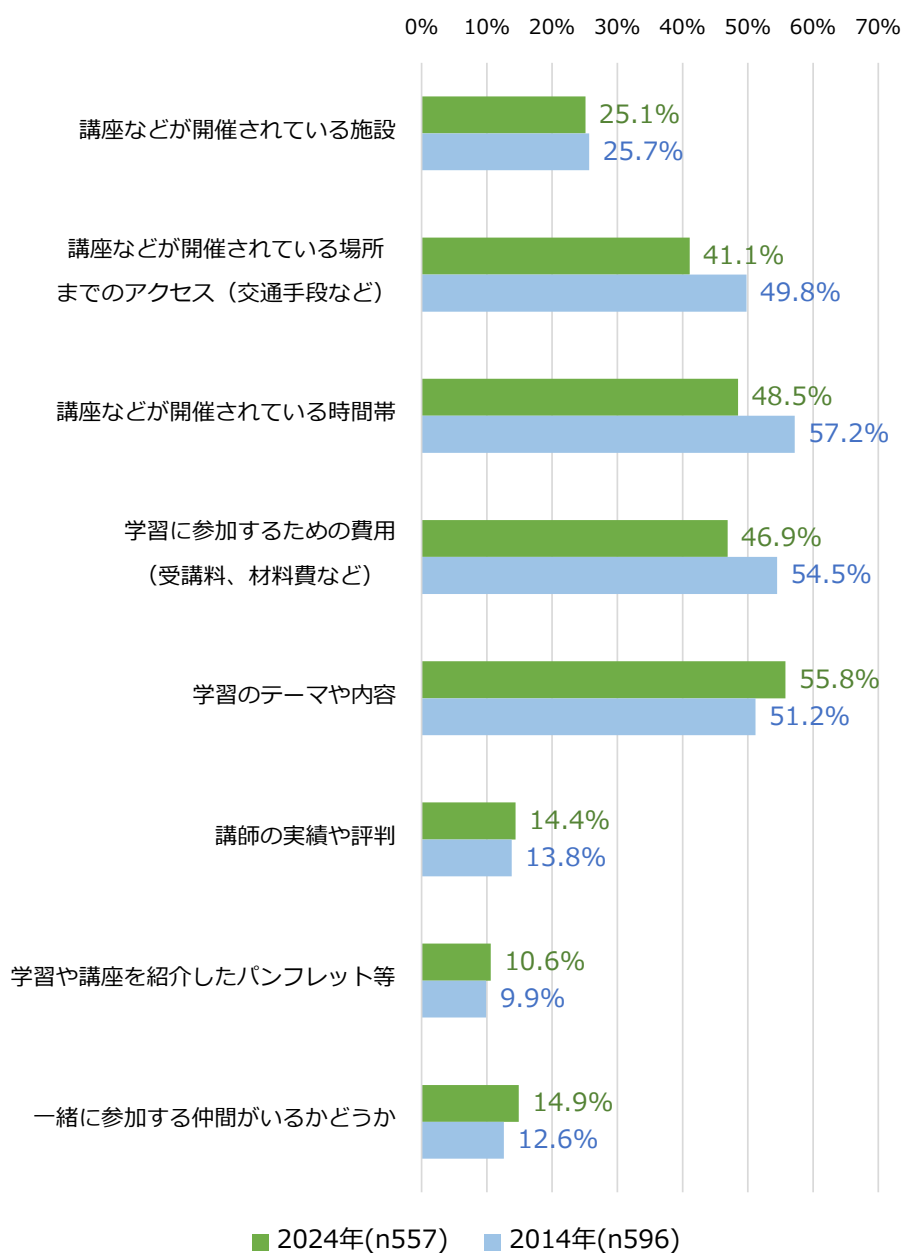
- ・学習や講座を選ぶポイントは「学習のテーマや内容」(55.8%) がもっとも多く、次いで「講座や学級、教室などが開催されている時間帯」(48.5%)、「学習に参加するための費用」(46.9%)、「講座や学級、教室などが開催されている場所までのアクセス」(41.1%)が多く4割を上回っている。



- ・2014年（H26）では、「時間帯」（57.2%）、「費用」（54.5%）の順に多かったが、2024年（R6）は「学習のテーマ内容」（55.8%）が最も多く、次いで「時間帯」（48.5%）の順となっている。

このことから、学習活動における関心の焦点が変化しており、費用や時間帯といった条件よりも、学習内容そのものの質や有用性が重視される傾向が強まっていることが分かる。

【2014年（H26）調査との比較】



問7 学習した成果をどのように生かしていると思いますか。あるいは生かせると思いますか。

〔すべてに○〕

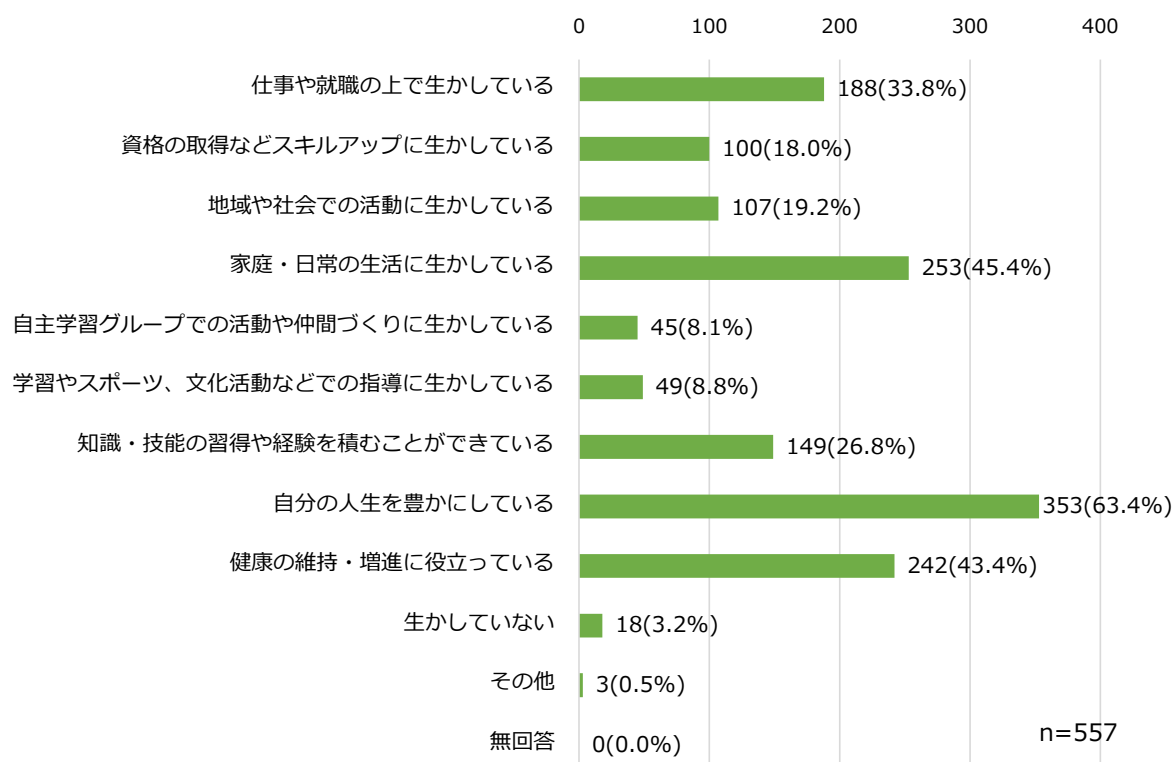
(生涯学習活動を行っている回答者 557 人)

- ・学習した成果を「生かしていない」と回答した割合は 3.2%であったことから、生涯学習を行っている 96.8%が学習成果を何らかの形で生活や仕事に活かしていることが分かる。

この高い割合は、生涯学習が個人の成長や社会参加において重要な役割を果たしていることを示している。

- ・どのように生かしているかの回答では「自分の人生を豊かにしている」(63.4%) が最も多く、次いで「家庭・日常の生活に生かしている」(45.4%)、「健康の維持・増進に役立っている」(43.4%) が4割を上回った。

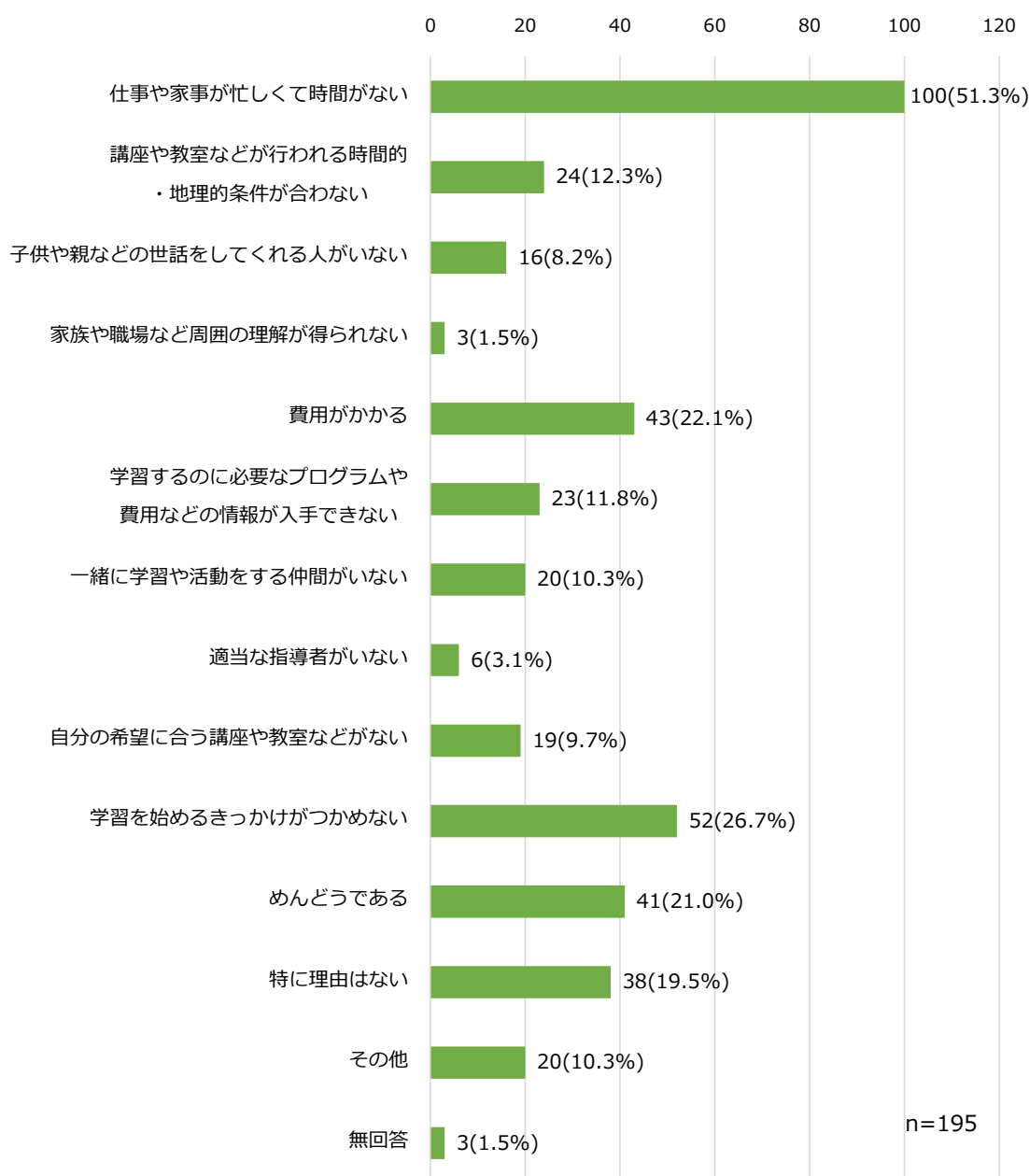
このことより、生涯学習が個人の幸福や生活の質の向上に対して重要な役割を果たしていることが示されている。



問8 問3で「12. 学習していない」とお答えになった方におたずねします。それはどうしてですか。〔すべてに○〕

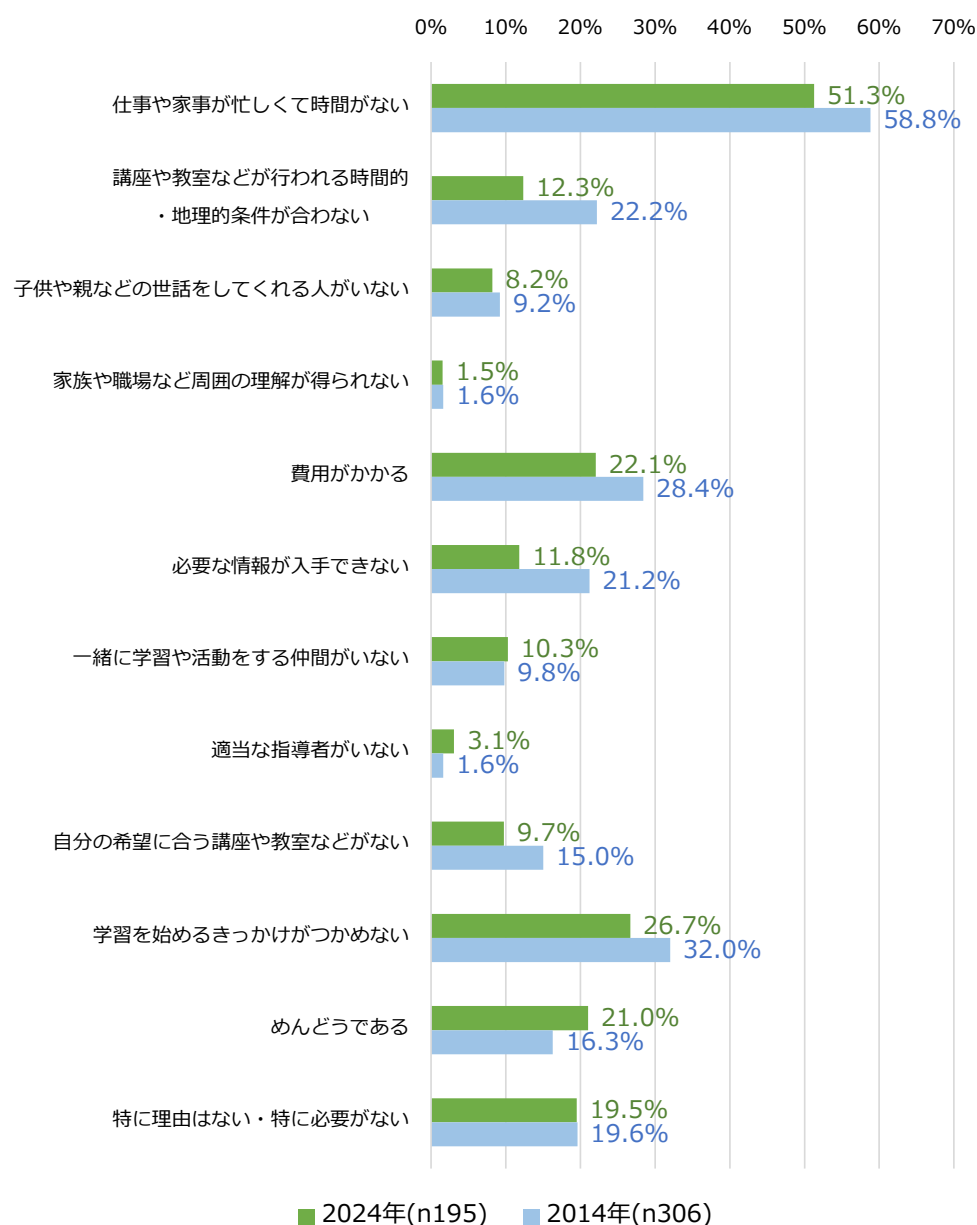
(生涯学習活動を行っていない回答者 195 人)

・学習活動を行わない理由のうちもっとも多い理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」(51.3%)である。次いで、「学習を始めるきっかけがつかめない」(26.7%)、「費用がかかる」(22.1%)が多い。



- ・2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、ほぼ同様の傾向が見られる。しかし、2024年（令和6年）は「めんどろである」の割合が4.7%増えている。
このことから、現代のライフスタイルや価値観の変化が、学習活動への参加意欲に影響を与えていることが示されている。

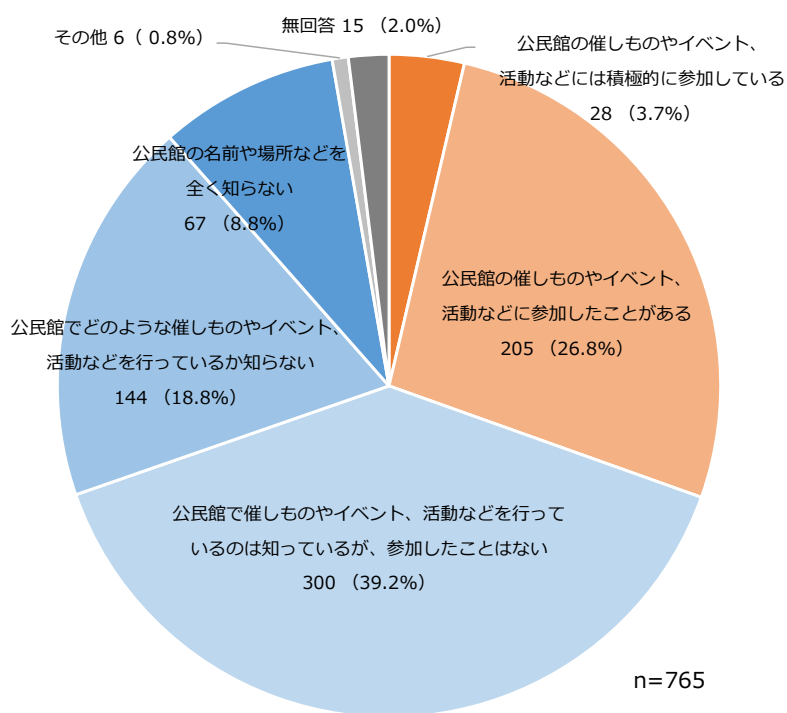
【2014年（H26）調査との比較】



金沢市の生涯学習の取り組みについて

問9 あなたがお住いの地区の公民館について、あなたはどのくらいご存じですか。〔1つだけ〇〕

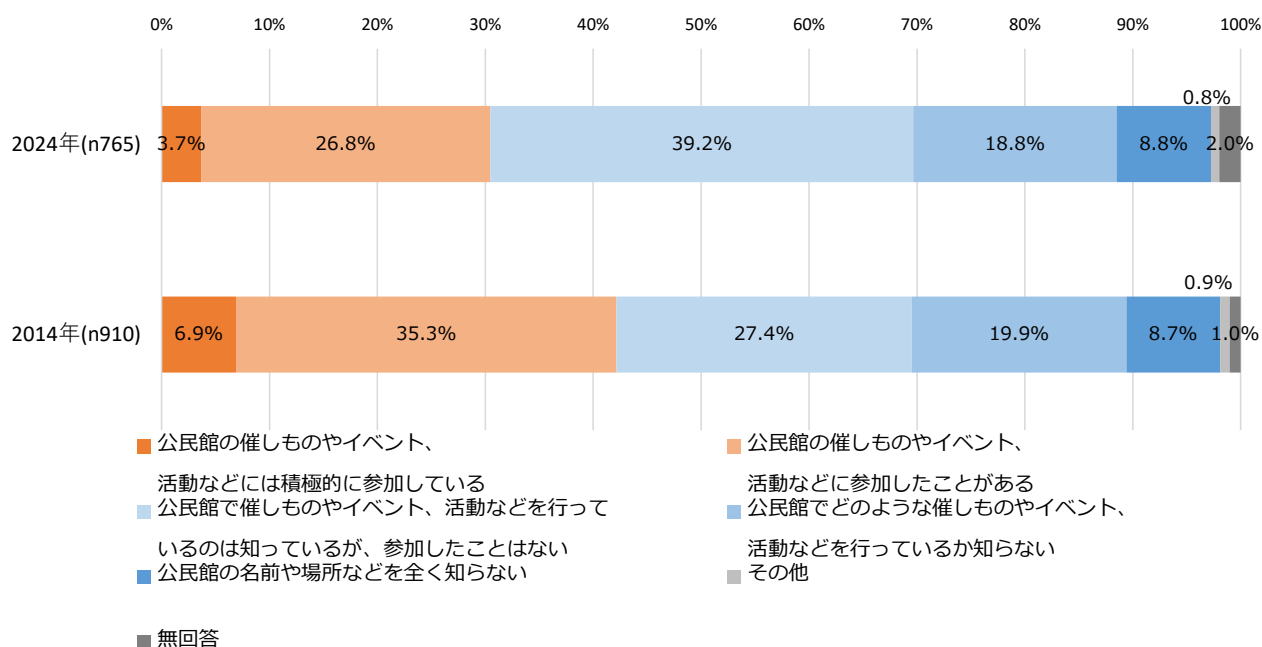
- ・地区公民館については、「公民館で催しものやイベント、活動などを行っているのは知っているが、参加したことはない」(39.2%) でもっとも多い。
- ・公民館活動に参加したことがある回答者は約3割で、積極的に参加している割合は3.7%にとどまった。
- ・また、公民館活動や名前・場所など全く知らないと回答している割合は、合わせて約3割である。



- ・2014年（平成26年）は「公民館活動に参加したことがある」という回答がもっとも多かった、2024年（令和6年）は「公民館活動について知っているが参加したことがない」という回答がもっとも多くなっている。
- ・参加経験は2014年（平成26年）の約4割から2024年（令和6年）の約3割に減少している。

このことから、**公民館活動の魅力や利便性が低下している可能性があり、参加促進のための新たな取り組みが必要である**と考えられる。

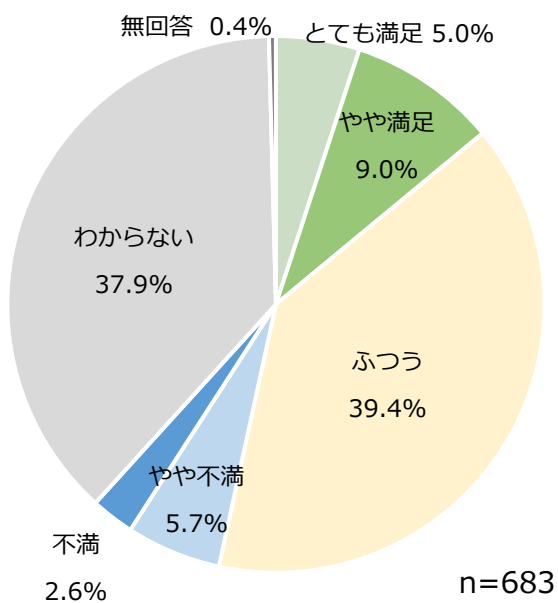
【2014年（H26）調査との比較】



問 10 あなたがお住いの地区の公民館について、あなたはどのように思いますか。〔各項目につき 1 つだけ○〕

(地区公民館を知っている回答者 683 人)

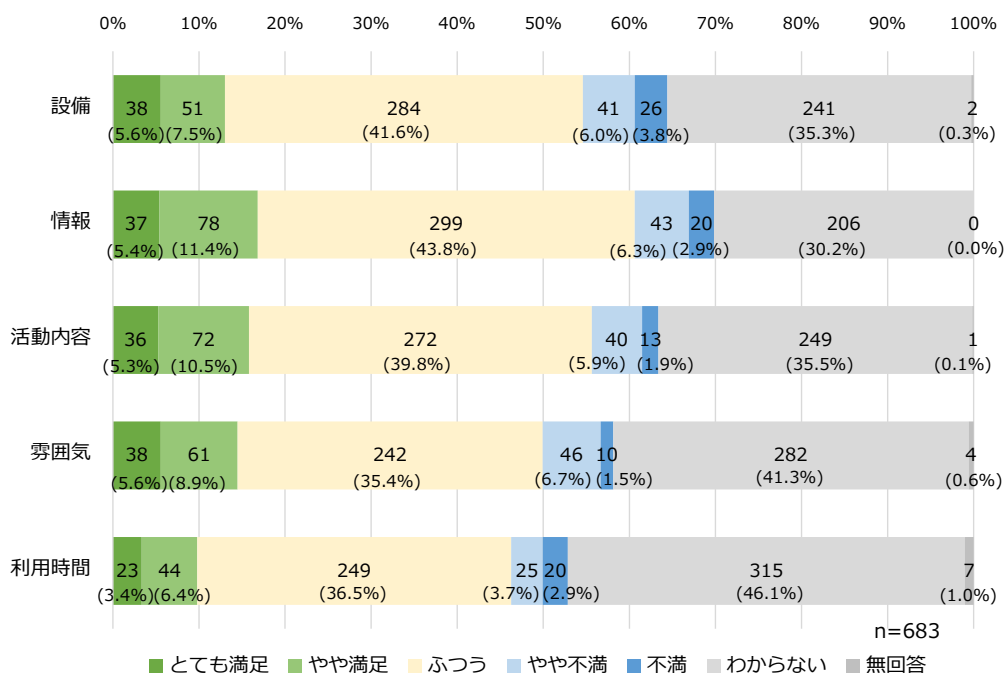
- ・「とても満足」「やや満足」は合わせて 14.0%、「やや不満」「不満」は合わせて 8.3%で満足が 5.7%上回っている。
- ・もっとも多かった回答は「ふつう」で 39.4%、「わからない」37.9%とほぼ同率であった。



- ・ 満足の割合がもっとも高かった項目は、「情報」で、次いで「活動内容」となっている。
- ・ 満足の割合がもっとも低かった項目は、「利用時間」である。

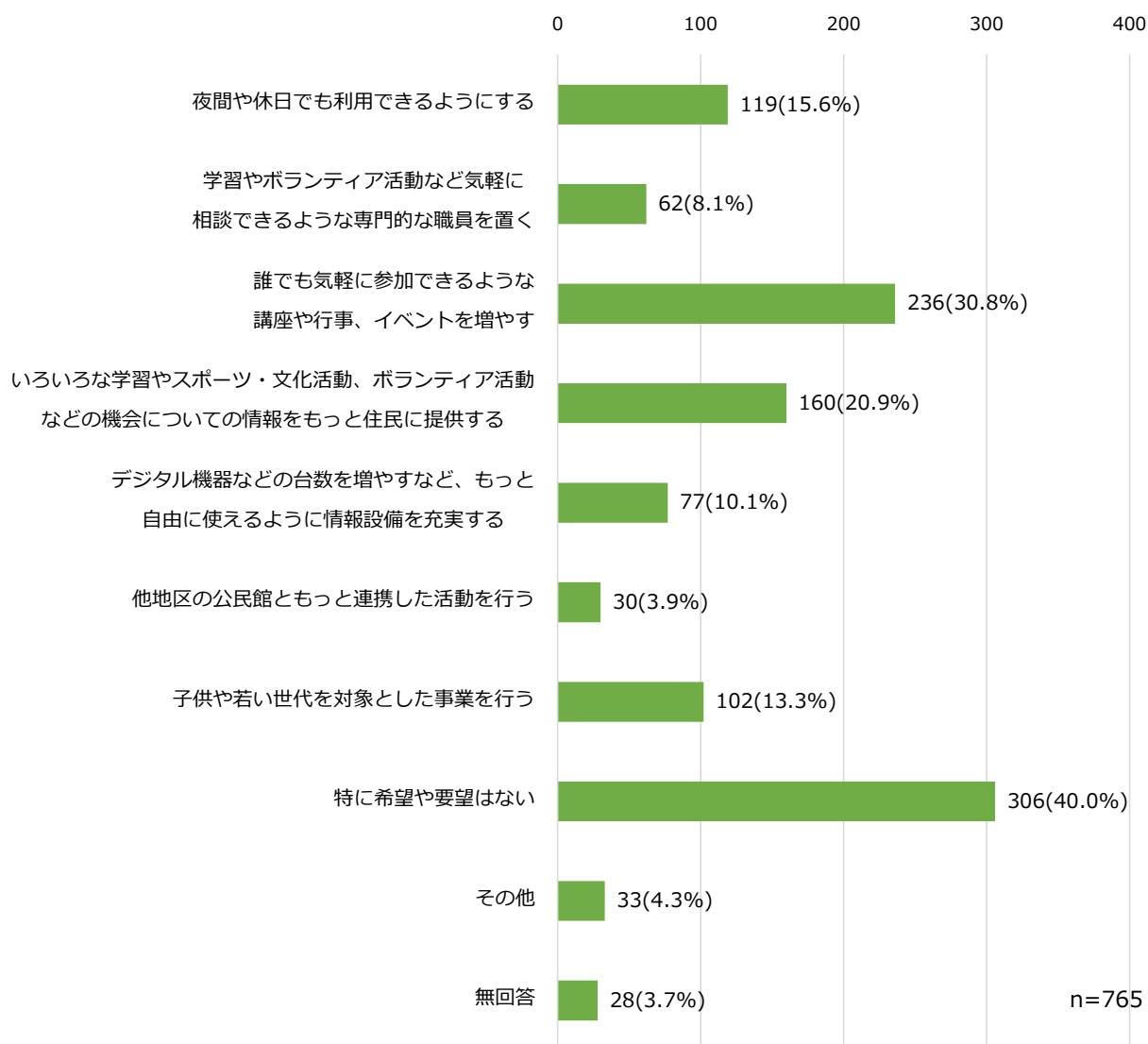
このことから、地区公民館の情報提供や活動内容は評価されているものの、利用時間については改善の余地があることが示されている。また、全体として「ふつう」や「わからない」と回答した割合が高いことから、利用者が公民館活動に対する関心や理解が不足している可能性が示唆される。

これにより、公民館の活動内容やその価値をより広く周知するための啓発活動が必要である。また、利用者のニーズにより合った活動内容や利用時間の改善を図ることで、参加意欲を高める取り組みが求められる。



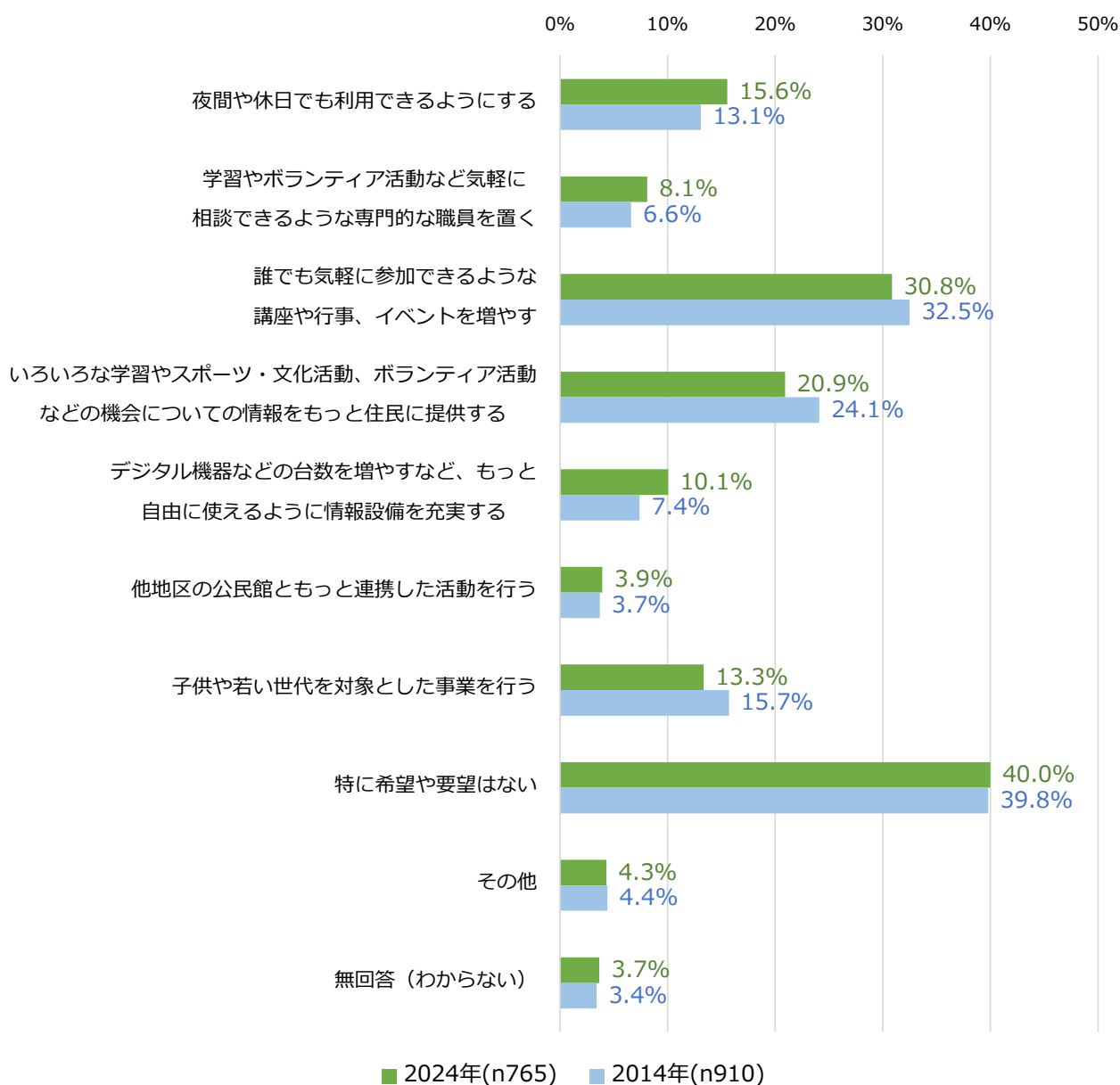
問 11 地区の公民館について、希望や要望はありますか。〔すべてに○〕

- ・地区の公民館に対する要望は、「誰でも気軽に参加できるような講座や行事、イベントを増やす」(30.8%) や「いろいろな学習やスポーツ・文化活動、ボランティア活動などの機会についての情報をもっと住民に提供する」(20.9%) が多かった。
- ・一方、「特に希望や要望はない」との回答がもっとも多く、約 4 割 (40.0%) に上っている。



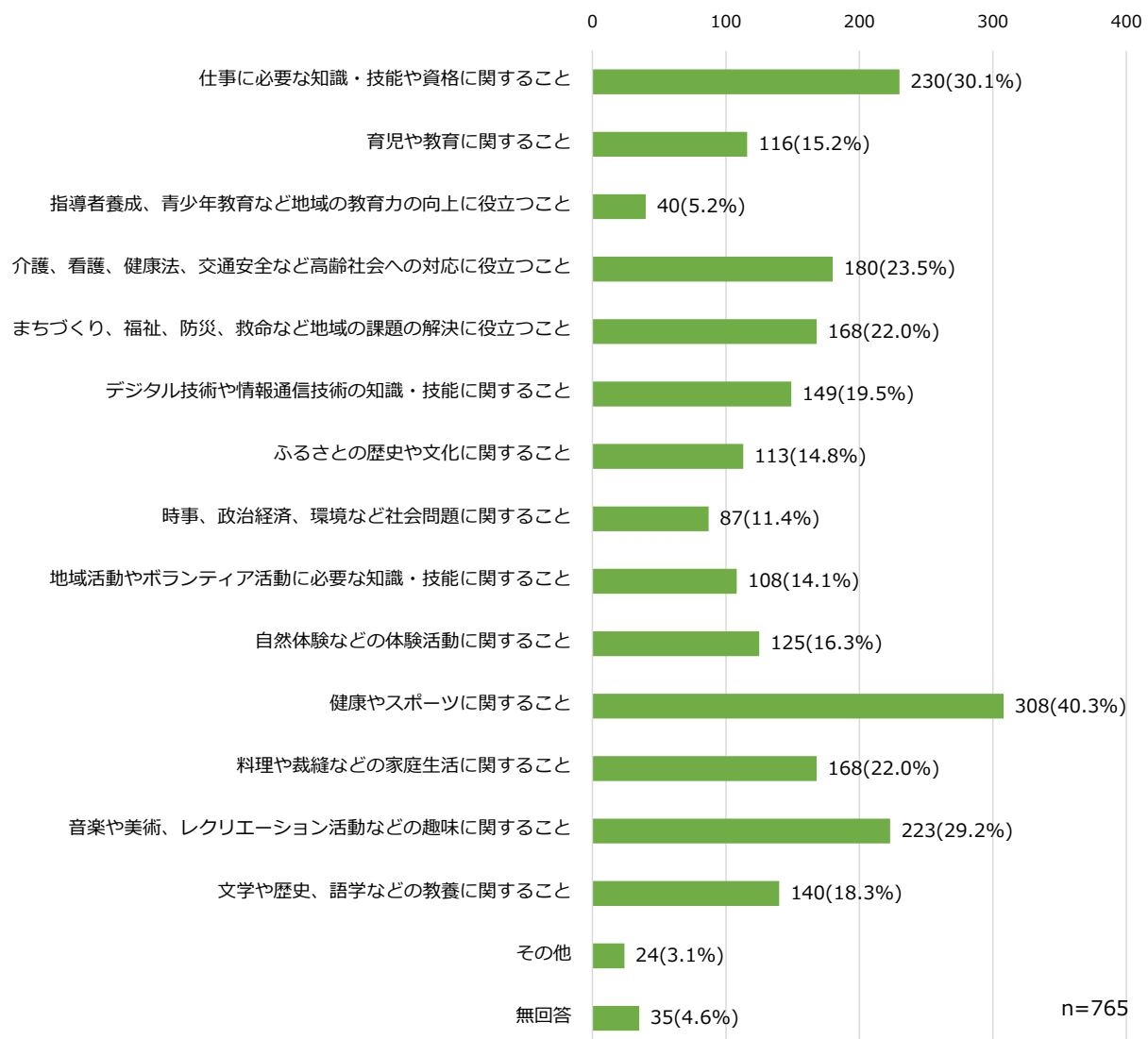
- ・2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、ほぼ同様の傾向が見られる。
- ・このことより、住民の多くが公民館の現在の活動やサービスに満足しているか、特別な期待や要望を持っていないことが示されている。しかし、一定の割合で講座やイベントの充実を求める声もあり、今後の地域活動の方向性を見直す際の参考になると考えられる。

【2014年（H26）調査との比較】



問 12 これから学習するとした場合、どのようなことを学習したいと思いますか。〔すべてに〇〕

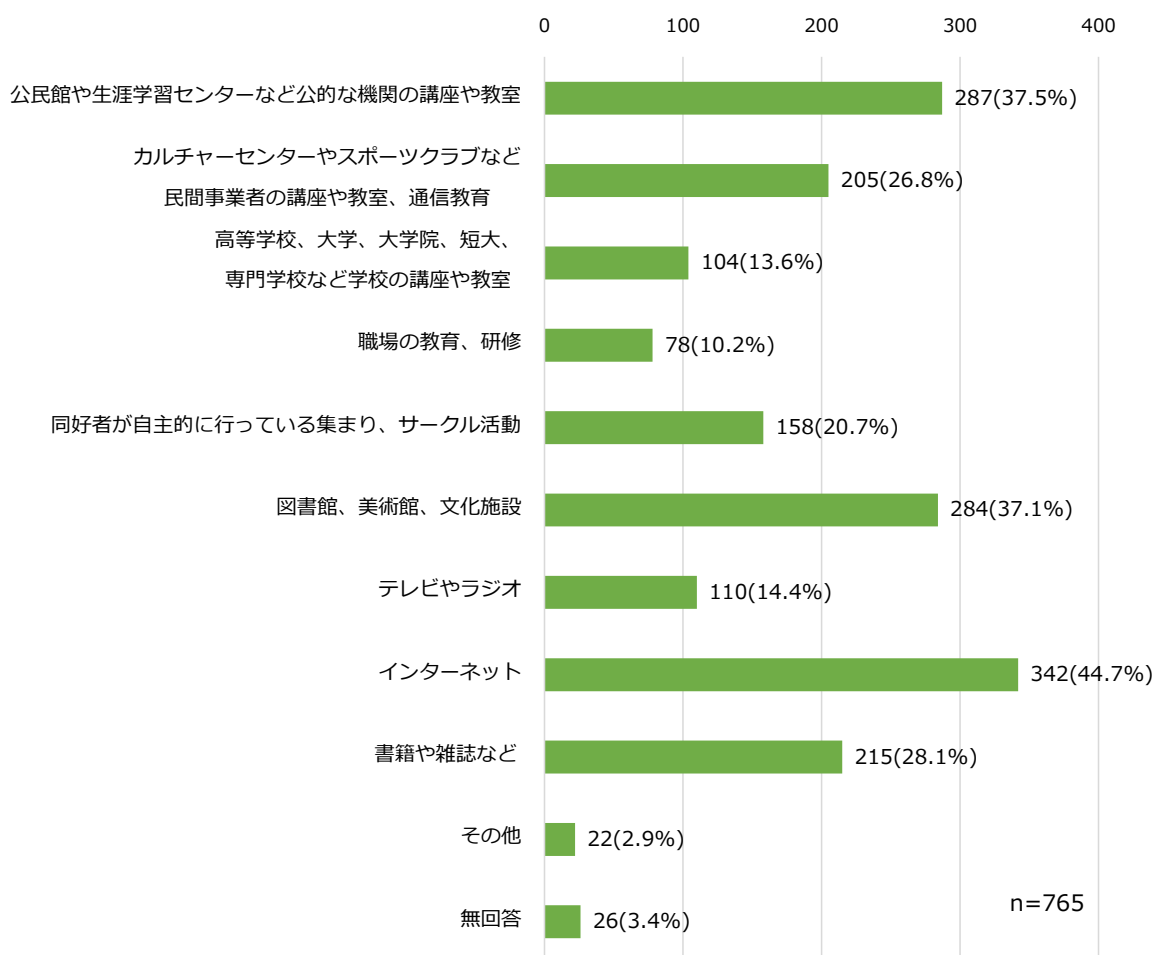
- ・これから学習したいことは、「健康やスポーツに関すること」(40.3%) がもっとも多く、次いで、「仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」(30.1%)、「音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること」(29.2%) が多い。



問 13 これから学習するとした場合、どのような場所や形態で学習したいと思いますか。〔すべてに○〕

- ・どのような場所や形態での学習を望んでいるかについては、「インターネット」(44.7%)がもっとも多く、次いで、「公民館や生涯学習センターなどの公的な機関の講座や教室」(37.5%)、「図書館、美術館、文化施設」(37.1%)が多い。

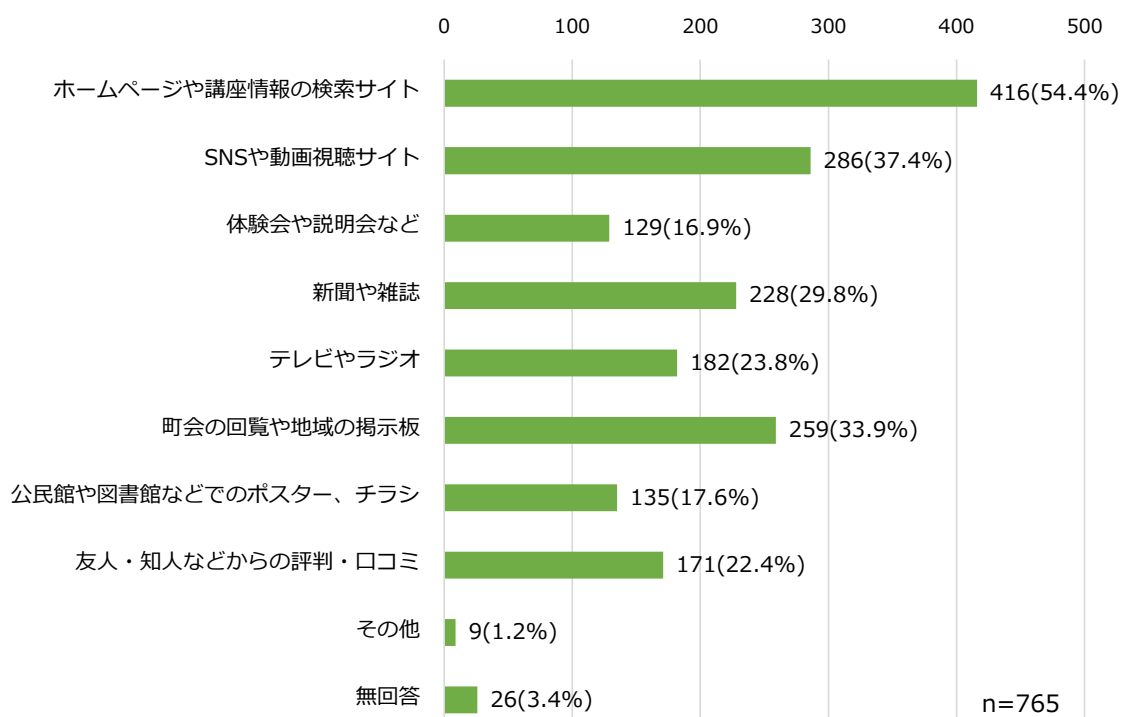
このことから、オンライン学習の利便性を重視している一方で、地域社会に根ざした学習機会や文化施設での学習にも高い関心を持っていることが分かる。多様な学習形態へのニーズが存在し、それぞれの学習者が自身に最適な方法で学ぶことを求めていることが示されている。



問 14 これから学習するとした場合、どこから情報収集したいと思いますか。〔すべてに○〕

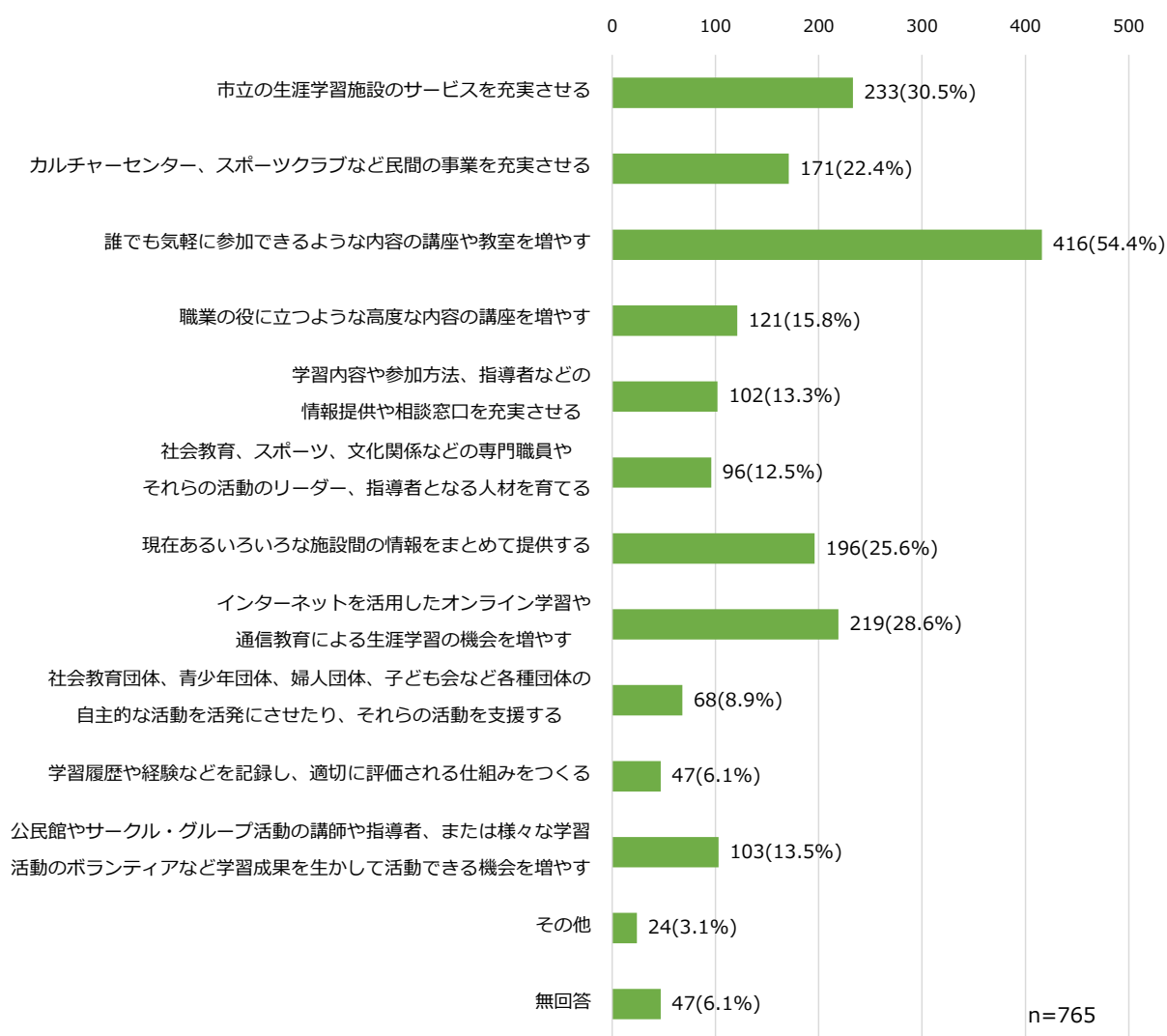
- ・ 学習活動に関する情報収集については、「ホームページや講座の情報検索サイト」（54.4%）がもっとも多く、半数以上の回答者が望んでいる。
- ・ 次いで「SNS や動画視聴サイト」（37.4%）、「町会の回覧や地域の掲示板」（33.9%）となっている。

このことから、インターネットやデジタルメディアを利用した情報収集が主流になりつつあることが分かる。一方で、地域コミュニティを通じた情報収集の需要も根強く存在している。多様な情報源を活用しながら、自身に合った学習活動を見つけることが重要であることが示されている。



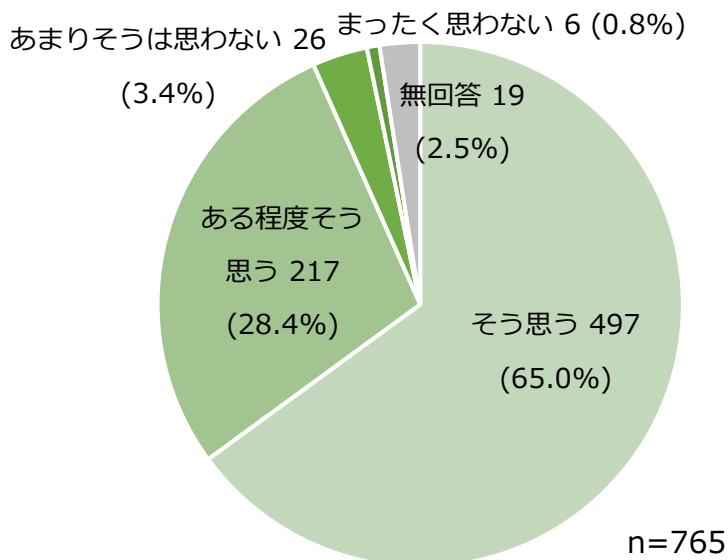
問 15 今後、金沢市民の生涯学習活動をより盛んにしていくために、どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。〔すべてに○〕

- ・金沢市の施策として求められているものは、「誰でも気軽に参加できるような内容の学級や講座を増やす」(54.4%) がもっとも多く、次いで「市立の生涯学習施設のサービスを充実させる」(30.5%)、「インターネットを活用したオンライン学習や通信教育による生涯学習の機会を増やす」(28.6%) が多い。
- ・市民は多様な学習機会を求めており、特に気軽に参加できるプログラムやオンライン学習の充実が重要視されていることが分かる。これらの施策は、市民の生涯学習を支援し、地域社会の活性化に寄与することが期待される。



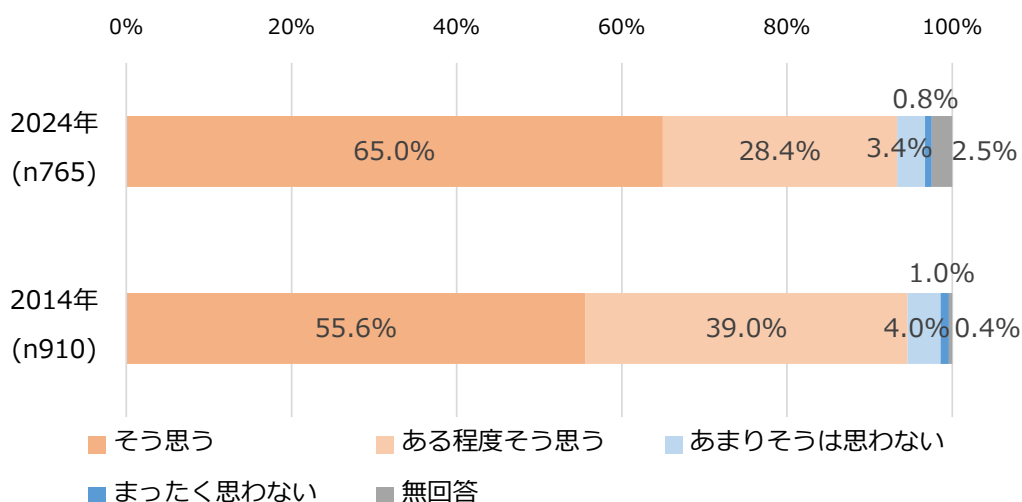
問 16 学校で学んだ後も、生涯にわたって新しい知識や技能を学ぶことは、あなたが、より豊かで満たされた人生をおくるために大切なことだと思いますか。〔1つだけ○〕

- ・「そう思う」(65.0%)、「ある程度そう思う」(28.4%) を合わせ、93.4%の回答者が、生涯にわたって新しい知識や技能を学ぶことの大切さを感じている。



- ・「そう思う」、「ある程度そう思う」を合わせた割合について、2024年（令和6年）と2014年（平成26年）を比較すると、ほぼ同様の傾向が見られる。しかし、2024年（令和6年）は「そう思う」の割合が9.4%増えている。
- ・このことから、現代社会において生涯学習の重要性がより一層認識されるようになったことが示されている。

【2014年（H26）調査との比較】

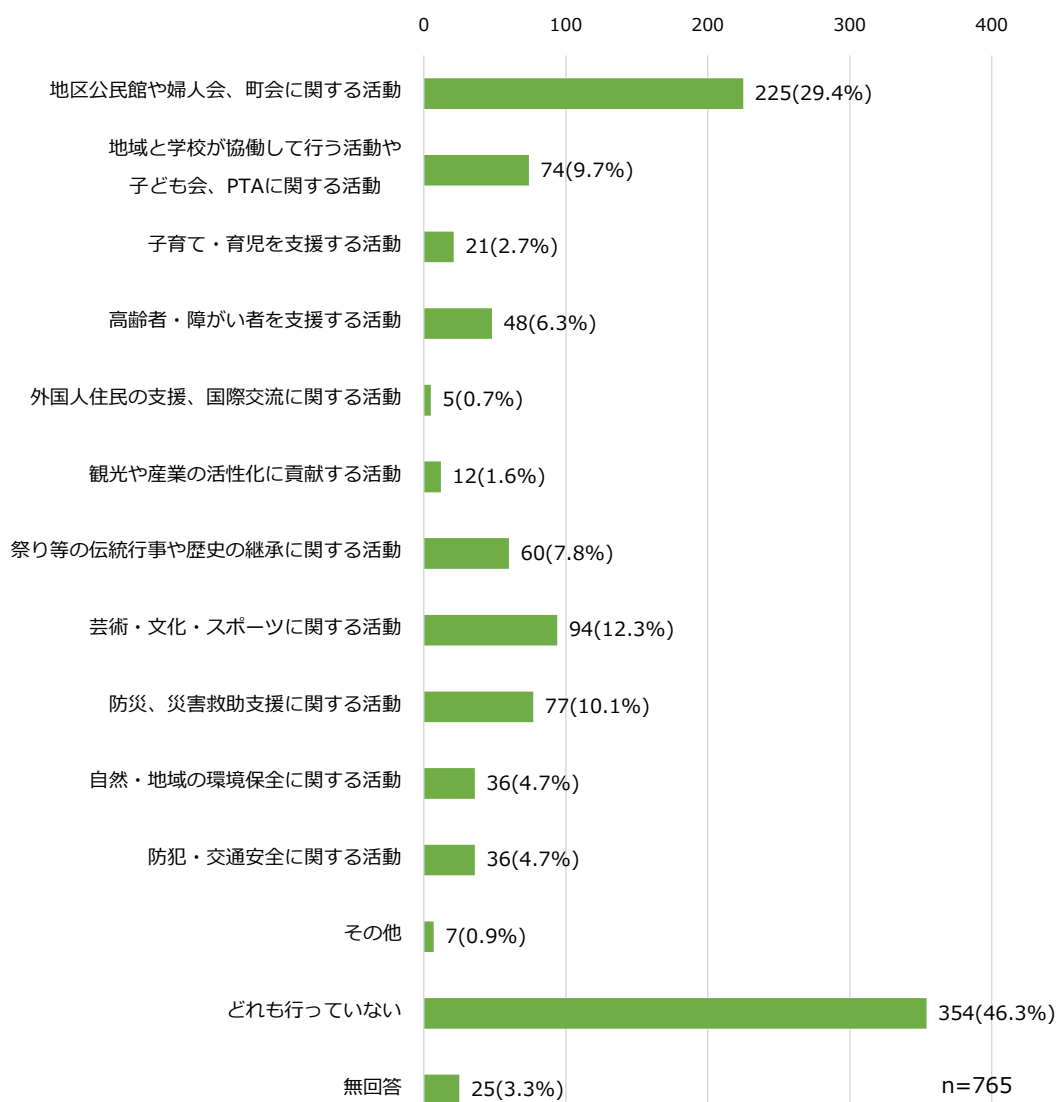


地域や社会での活動に関する考え方について

問 17 あなたは、地域活動・ボランティア活動について、この1年間に以下のような活動に参加しましたか。〔すべてに○〕

- ・回答者の53.7%がこの1年の地域活動やボランティア活動への参加している。
- ・活動内容については、「地区公民館や婦人会、町会に関する活動」(29.4%)がもっとも多い。「芸術・文化・スポーツに関する活動」(12.3%)、「防災・災害救助支援に関する活動」(10.1%)がこれに続いている。

このことより、**多くの住民が地域社会に積極的に関わり、地域の連帯感や安全性の向上に寄与していることが示されている。**特に、地区公民館や町会などの**地域組織を通じた活動が活発であり、地域のコミュニティづくりに重要な役割を果たしている**ことが分かる。

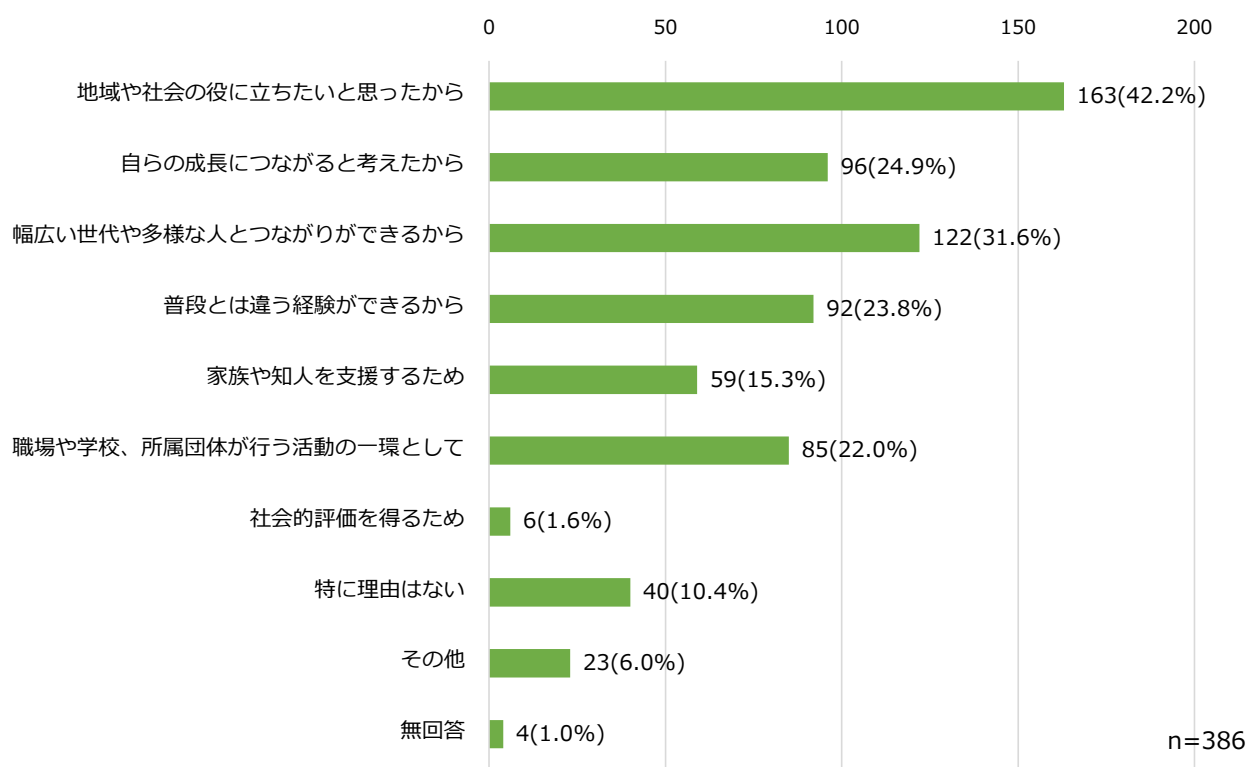


問 18 あなたが、地域活動・ボランティア活動に参加した理由は何ですか。〔すべてに○〕

(地域活動・ボランティア活動に参加した回答者 386 人)

- ・参加した理由は、「地域や社会の役に立ちたいと思ったから」(42.2%) がもっとも多く、次いで「幅広い世代や多様な人とつながりができるから」(31.6%) が多くなっている。
- ・「自らの成長につながると考えたから」(24.9%)、「普段とは違う経験ができるから」(23.8%)、「職場や学校、所属団体が行う活動の一環として」(22.0%) も 2 割を上回った。

このことから、地域活動やボランティアに参加する人々は、社会貢献だけでなく、自身の成長や新しい経験を求めていることが分かる。

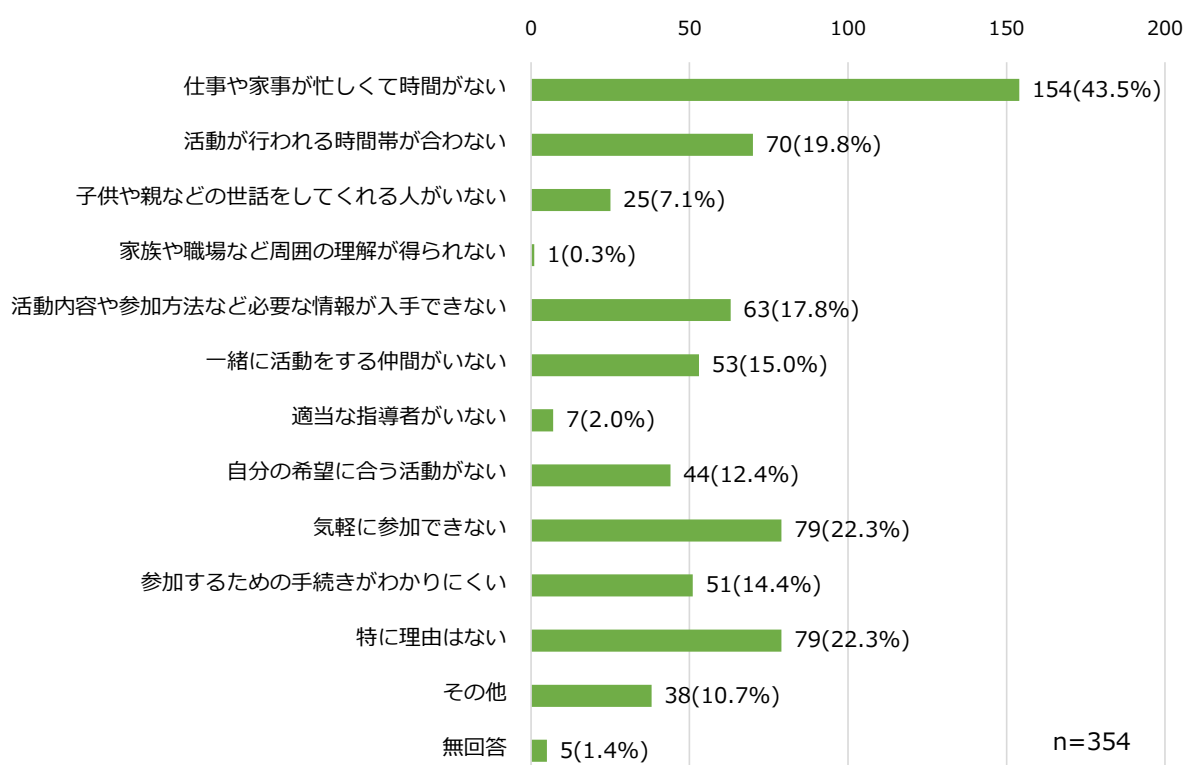


問 19 問 17 で「13. どれも行っていない」とお答えになった方におたずねします。それはどうしてですか。〔すべてに○〕

(地域活動・ボランティア活動に参加していない回答者 354 人)

- ・参加していない理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」(43.5%) がもっとも多い。
- ・「気軽に参加できない」(22.3%)、「活動が行われる時間が合わない」(19.8%) などの理由も多く挙げられている。

このことから、忙しい生活スケジュールや参加しやすさに対する懸念が、地域活動やボランティア活動の参加障害になっていることが示されている。さらに、これらの障害を克服するためには、参加しやすい時間帯での活動提供や、より気軽に参加できる環境の整備が必要であることが分かる。



問 20 多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔すべてに○〕

- ・地域活動等への参加を促進するために必要なことは、「地域や社会での活動に関する情報提供」（57.3%）がもっとも多く、次いで「地域や社会に関する講習会の開催などの活動への参加につながるようなきっかけ作り」（41.6%）となっている。

このことから、**地域住民が活動に参加するためには、活動に関する情報を適切に提供し、参加を促すための具体的な機会を創出することが重要**であると考えられる。

